



「減築」というリフォームが注目を集めています。聞き慣れない言葉ですが、子供が独立した高齢者世帯などで、不要になった部屋を取り除いて住宅の床面積を減らすことを言うようです。どんなメリットがあるのでしょうか？

——そもそも減築とはどういうものなのでしょうか。三井のリフォーム住生活研究所「所長の西田恭子さんにお聞きします。

西田さん「我々の研究所では減築とは建物の建築面積や床面積を減らして住環境の改善を図るリフォーム」と定義しています。例えば2階部分を全部取り払ったり、住宅の南半分をなくしたりすることです」

——確かに、子どもが家を巣立っていきけば、不要な部屋が出てきますが……。でも、わざわざ減築する意味があるのでしょうか？

西田さん「減」というと、マイナス要素が多いと感じるかもしれませんがね。でも、減築には日当たりや風通し、耐震性が向上したり、床面積が減ることによって掃除が楽になったり、冷暖房費が軽減できたりと様々なメリットがあります。少子高齢化の時代、『大きいこと』は良いことではなく、家族人数の減少に合わせて小さく暮らす方が快適だ、という考え方がです」

——なるほど、メリットは確かにあるんですね。実際の施工例はあるのでしょうか。住友林業ホームテック取締役営業部長の岡本光平さん、どうでしょう？



小町キャスター くらし報道局

岡本さん「2階をすべて取り払った例があります。東京の郊外で6DKで床面積が124平方メートルだった2階建て住宅の2階を取り、3DKで92平方メートルの平屋にしま

した。耐震補強工事も合わせて行い、減築後は現行の建築基準法の耐震基準を満たすようになりました。工事期間は約100日です。このような大規模工事では、住みながらの実施は難しいので、通常は仮住まいが必要になります」

——減築する際に、高齢者が気をつけるべきことは？

溝口さん「年を取って体が衰えても困らないように、バリアフリー化しておくことで、段差をなくしたり、通路の幅を広くしたり、建物の構造を変えるとなると大改造になりますが、要支援や要介護に認定された人が住宅改修を行う場合でも、介護保険からは最高で18万円しか支給されません」

——一度にすませてしまおう方が得なんですね。

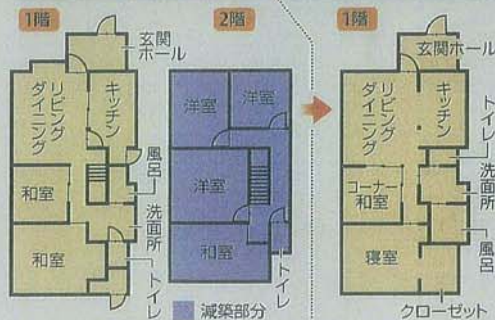
(経済部 福森誠)

* 『やりくり』は毎週月曜掲載。次回(6月15日)のテーマは「個人信用情報の統合」。* あすは『たしなみ』です。

子供独立 部屋減らす

「減築」リフォーム

◆2階を取り払って平屋にした減築の一例



「三井のリフォーム住生活研究所」の資料を基に作成

- ①次のうち「減築」に当たるのはどれ？
- ④2階建て住宅に、新たに地下室を造る
 - ③2階建て住宅を3階建てにする
 - ②2階建て住宅の2階を取り払って平屋にする

- ②要支援、要介護に認定された人が住宅改修工事を行う場合、介護保険からは最高でいくら支給される？
- ④3万円
 - ③18万円
 - ②30万円

クイズ&プレゼント

クイズにお答え下さい。正解者の中から、抽選で5人に各2万円のJCBギフトカード、25人に図書カード(1000円)を贈呈します。締め切りは6月16日(必着)です。



* 応募方法 はがきに答えと郵便番号、住所、氏名、職業、年齢、電話番号、またはEメールアドレスを明記し、〒119-0197(住所不要)郵便(株)

日本橋支店 読売新聞東京本社「小町キャスター くらし報道局 クイズ」係まで(読みたいテーマも募ります)。正解は6月24日付朝刊「家計の知恵」面に掲載。